

令和七年度
(前期日程)

国語

(現代の国語・言語文化・論理国語・古典探究)

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 二、この問題冊子は、十六ページあります。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 三、すべての解答用紙に受験番号を記入しなさい。
- 四、解答は、すべて解答用紙の指定のところに記入しなさい。
- 五、解答用紙はすべて机の上に出しておくこと。机の中に入れてはいけません。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の都合で本文の一部を改めている。

著作権の関係上公表しません

著作権の関係上公表しません

著作権の關係上公表しません

著作権の關係上公表しません

著作権の關係上公表しません

著作権の関係上公表しません

(岩内章太郎『私』を取り戻す哲学』による)

〔注〕

- 1 TPO — 時間、場所、場面・場合を表す略語。
- 2 サイバースペース — コンピュータネットワーク上の仮想的な空間。
- 3 メタバース — インターネット上に構築される仮想の三次元空間。
- 4 アバター — デジタル空間におけるユーザーの分身となるキャラクター。
- 5 VR — バーチャル・リアリティ。仮想現実。
- 6 メタモルフォーゼ — 変形。変身。
- 7 レーティング — 評定。対象となる物事がある基準に基づいて評価し、等級などを定めること。
- 8 分人 — 対人関係ごと、環境ごとに分化した異なる人格。個人に代わる新しい人間のモデルとして提唱された概念。

問一 二重傍線部①～⑥のうち、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに改めよ。

問二 波線部(ア)「俯瞰」、(イ)「食傷」とあるが、それぞれのどのような意味か。簡潔に答えよ。

問三 空欄 A に入る最も適当な言葉の組み合わせを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ① | A | あるいは | B | ただし | C | しかも | D | たとえば |
| ② | A | さらに | B | なぜなら | C | そうして | D | また |
| ③ | A | しかし | B | つまり | C | もちろん | D | ところが |
| ④ | A | つまり | B | しかも | C | なぜなら | D | たしかに |
| ⑤ | A | ところが | B | たとえば | C | たしかに | D | つまり |

問四 傍線部(一)「ここには、ポジティブな可能性がある」とあるが、どういうことか。本文の主旨に沿って、わかりやすく説明せよ。

問五 傍線部(二)「私」の存在の実在性は、自己デザイン志向に対する「私」の抵抗とその摩擦に相關する」とあるが、どういうことか。本文の主旨に沿って、わかりやすく説明せよ。

問六 空欄

E

に入る最も適当な表現を、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- ① 自己「デザイン」の自由度を高めていけば、〈私〉の自由にはならない〈私〉も超えられる
- ② 自己「デザイン」に限界が見えてきたときには、その地平に〈私〉の存在が現われている
- ③ 自己「デザイン」の有限性を超えて、新しい〈私〉になろうと努力することが重要である
- ④ 自己「デザイン」が限界に突き当たるとき、〈私〉の空間はバランスを失って希薄になる
- ⑤ 自己「デザイン」の可能性を無限に広げていけば、〈私〉の座標はおのずと定まってくる

問七 傍線部(3)「私」の輪郭が曖昧になっていくのは、当然の帰結なのだ」とあるが、なぜか。その理由を本文の主旨に沿って、わかりやすく説明せよ。

問八 傍線部(4)「私」よりもアルゴリズムの方が〈私〉をよく知っている」とあるが、どういうことか。本文の主旨に沿って、わかりやすく説明せよ。

問九 傍線部(5)「こんなねじれた状況」とあるが、どのような状況か。本文の主旨に沿って、わかりやすく説明せよ。

問十 空欄

F

に入る最も適当な表現を、本文中から七字で抜き出せ。

問十一 本文の主旨に合致するものを、次の①～⑥のうちから二つ選び、それぞれの番号を記せ。

① TPOに合わせて〈私〉を演出しようとする自己デザイン志向は、他者と良好な関係を築くために必要なものであるが、限度を超えてしまうと、他者からの評価を下げることもつながらず。

② 現実の世界と異なるVR空間では、繰り返し体験することで、〈私〉は何にでも変身できるようになるが、変身した〈私〉が抱く欲望は、現実世界の〈私〉が抱く欲望と同じであり変化しない。

③ 現実世界では、自由に自己デザインできるサイバースペースと異なり、多くの制約の中で自己デザインせざるを得ないが、制約があることで〈私〉がコンテンツ化されるのを未然に防ぐことができる。

④ 〈私〉が何者であるかを知るためには、〈私〉が抱える「弱さ」や「脆さ」など〈私〉が自由に作り変えることのできない部分をデザインし、新たな〈私〉になろうと努力することが必要である。

⑤ サイバースペースでは、他者の視線を気にせず自らの好みで自由に自己デザインできるが、そのためにかえって自由にデザインされた〈私〉とコンテンツ化した〈私〉との差異が際立ってくる。

⑥ SNSでは、コンテンツ化した〈私〉を自らの意志によって提供するが、コンテンツは際限なく消費されるので、つねに新たな〈私〉をコンテンツとして提供し続けなければならない。

国語の試験問題は次頁に続く。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

著作権の関係上公表しません

〔注〕

- 1 中比——そう遠くない昔。
2 山——ひえいざん比叡山。

〔『発心集』による〕

3 糺——賀茂御祖神社みおやの糺社。

4 一町——約一〇九メートル。

5 まくれて——目がくらみ、氣を失つて。

6 ことをきれる——判定を下した。

7 汗うち流れあえて——汗が自然と流れ出て。

問一 『発心集』と同じジャンルの作品を、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号を記せ。

① 『今昔物語集』

② 『小右記』

③ 『新古今和歌集』

④ 『徒然草』

⑤ 『枕草子』

問二 傍線部(1)と文法的に同じ意味・用法のものを、二重傍線部(a)～(f)のうちから一つ選び、その記号を記せ。

問三 波線部(イ)「おぼつかなきこと侍り」、(ロ)「ことなくなむ起きたりける」をそれぞれ現代語訳せよ。

問四 傍線部(2)「言ひやみて、皆去りぬ」とあるが、どういうことか。動作の主体を明らかにした上で、説明せよ。

問五 傍線部(3)「汝がしわざ、心得ず」とあるが、どういうことか。「汝がしわざ」の内容を明らかにした上で、説明せよ。

問六 傍線部(4)「神経と言ふもたがはず」とあるが、どういうことか。本文に即してわかりやすく説明せよ。

問七 傍線部(5)「口惜しければ」とあるが、なぜか。本文に即してわかりやすく説明せよ。

問八

本文の内容と合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- ① 修行のため比叡山から下りた僧は、幼い童が言い争っていた問題を解決したので彼らに感謝された。
- ② 幼い童は、様々なお経があることを疑問に思い、どのお経が最も格式が高いのかを言い争っていた。
- ③ 高貴な人は、幼い童の言い争いを僧が解決したことに立腹し、河原で僧をつかまえて直接抗議した。
- ④ 高貴な人は、幼い童の主張にはそれぞれ一理あるため、彼らが議論する様子を感じて聞いていた。
- ⑤ 夢から目覚めた僧は、神までもが仏教を厚く信仰していることを改めて実感し、深い感動を覚えた。

国語の試験問題は次頁に続く。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。

著作権の関係上公表しません

〔世説新語〕規箴による〕

〔注〕

- | | | | |
|---|------------------|---|-------------------------|
| 1 | 申憲——法律を適用して処罰する。 | 2 | 東方朔——弁舌と文章に優れた、漢の武帝の側近。 |
| 3 | 万——万が一の救済。 | 4 | 勅——皇帝の命令。 |

問一 二重傍線部(ア)「嘗」、(イ)「勿」、(ウ)「耳」、(エ)「乃」は、ここではどのように訓読するのが最も適当か。その読み方をそれぞれ平仮名で答えよ。ただし、現代仮名遣いでもよい。

問二 波線部の「忍」と同じ意味で「忍」の字を用いている熟語はどれか。次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- ① 忍術 ② 堪忍 ③ 忍従 ④ 残忍 ⑤ 忍耐

問三 傍線部(1)「此非唇舌所_レ争」について、「此」の指す内容を明らかにした上で、現代語訳せよ。

問四 傍線部(2)「将去時、但當屢顧帝」は、「まさにさらんとするとき、ただまさにしばしばていをかへりみるべし」と訓読する。

解答用紙の白文に訓点(返り点・送り仮名)を書き入れよ。

問五 傍線部(3)「此」とはどういうことか。その内容を、わかりやすく説明せよ。

問六 傍線部(4)「帝豈復憶汝乳哺時恩邪」について、以下の設問に答えよ。

(1) この文を書き下し文に改めよ。

(2) この発言の真意は何か。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- ① 武帝は東方朔に、乳母の恩義に免じて罪を許すよう自分に進言させようとした。
- ② 東方朔は乳母に、武帝がさらに憐れと感^{あは}じるような上手な演技をさせようとした。
- ③ 乳母は武帝に、乳母であつても恩情に流されない厳正な対処を求めようとした。
- ④ 武帝は乳母に、皇帝が救ってくれるというはかない希望を断念させようとした。
- ⑤ 東方朔は武帝に、育ててくれた乳母への感謝の気持ちを思い起こさせようとした。